

同窓会報 ひらまの輪 vol.02

発行責任者：阿部操

TEL：090-4463-0778

MAIL：hirachudousou@gmail.com



WEBでも

活発な母校発信の拠点

会長挨拶



皆さんこんにちは。同窓会長の阿部操と申します。私は1972（昭和47）年に卒業した10期生です。昨年11月、同窓会報「ひらまの輪」を創刊することができました。前任の同窓会役員時代からの念願であった同窓会報を発行できて大変うれしく思っています。

創刊号は、卒業した同窓生のみならず、在校生の皆さんにも配布し、同窓会の存在をアピールできたと考えています。また、平間中学校区の町内会の皆さんにも回覧いただき、地域における平間同窓会の存在を告知できました。会報に1、2期生の同窓会会合の報告・案内を掲載したところ「私たちの代も同窓会をやる予定です」などの声が私の耳にも入りました。今後、会報を年間2、3回発行していき、同窓生の卒業後の活躍、同窓会と在校生とのかわり、同窓生同士の会合のご案内など

さまざまな話題を提供していきたいと思っ

さて、昨年は5月に新型コロナウイルスが5類に移行したことをきっかけに、世間ではいつものさまざまな行事が開催されるようになりました。平間中においても、コロナ禍前の体育祭、文化活動、合唱コンクールなど、普段の生活に戻ってきました。

そんな中、同窓会としても各行事に積極的に参加して、在校生とのつながりを大事にしていま

同窓会役員会も定期的に開催し、今後の新たな運営の仕方を検討したり、卒業生と在校生とのつながりを持てるような企画を考えたりしています。毎年春になると卒業生イコール同窓生が増えていきます。卒業したばかりの同窓生は、たまには母校に顔を出したいのではないかと考えており、学校行事の際や、成人の会での集まりの機会などを利用して、平間中に集まれる場を作ること

地域に顔見世
創刊号2千部
昨年11月3日、同窓会報は、同窓生と在校生をつなぐメディアとして産声を上げた。卒業した先輩がインタビューで在校生に向けてエールを送ったり、卒業したばかりの高校生から近況を寄せてもらったり双方向性のある記事とした。

創刊号は同窓会役員の手で約2400部を印刷し在校生に配布したほか、平間中学校区の町内会のご協力で、掲示板や回覧板でご覧いただいた。平間中のウェブサイ

創刊号を読んだ人からは「親子三代で面白がって読んだ」「各界で活躍している卒業生をもっと紹介して」などの感想をいただいた。

最後に、役員は以下の方々。
名誉会長 辻敏明校長先生
副会長 金持敏雄（3期）、野悠貴（46期）、▽会計監査 鈴木一吉（10期）、森田博昭（2期）
▽事務局 古屋明利（1期）、細川弘美（32期）、大野達也（40期）、福地源太（52期）
▽会計 河野利智（12期）、山内暢人（43期）
▽サポーター 土屋和彦（1期）、水越久雄



昨年11月に創刊した同窓会報（中央）。平間中学校区の各町内会掲示板や回覧板で、同窓会の目的や活動を伝える＝平間中近くで2月3日撮影

投稿募集

同窓会の告知・報告や、活躍している同窓生の情報、あなたのスクールメモリーなど幅広く募集します。とくに卒業して間もない若い方からのご連絡をお待ちしています。高校・大学で頑張っていること、仕事と母校のつながりなど、テーマは問いません。広告のご相談のほか、同窓会役員スタッフや活動に協力していただける方も募集しています。
(同窓会役員一同)



河野さんが通っていたころの平間中＝卒業アルバムから

学校は大変なときもありましたが、生徒が自分自身で良い学校にするのだという意気込みがありました。私は平間中の教員時代、その後の教員人生を支える貴重な出会いを生徒とすることができました。その感動は今でも私の糧となっています。
(かわの・としとも)
同窓生に平間中での青春や思い出を語ってもらいます。



わたしの学び舎

12期 河野利智さん



東京タワー開業の年に生まれた私たちは、1971（昭和46）年からの3年間中学校生活を送りました。当時は学年9クラスで校内は人で活気にあふれていました。朝会で生徒会がギターを弾きながら「若者たち」戦争を知らない子供たち」などを歌っていても居心地の良さを感じました。

終戦から14年後に生まれた私たちは本当に戦争を知らないで未来に希望だけをもって生きました。やんちゃな友達も時々やらかして坊主になったりしていました。が、みんな元気で仲がよかったです。教員になった私は、2000（平成12）年から8年間、41歳で再び母校に戻りました。新校舎や制服も当時とは変わりましたが、平中生のパネ親しみやすさは、やっぱり後輩だからなのか、とても居心地の良さを感じました。

